

ケニアでの5か月半を振り返って

福田幸

CanDo のインターンとして保健活動に従事し、主に小学校での早期妊娠予防研修を担当させて頂きました。小学生の妊娠による学校中退が多く、その全ての子どもたちが結婚するわけではなくシングルマザーとなっていることや、望まない結婚をさせられるという状況のなかで、早期妊娠の危険性を伝えるためケニア人スタッフと共に特に課題が多い小学校を訪問して回りました。私自身、保健の専門家ではないため、共に学ばせて頂き貴重な経験をした5か月半でした。

教育局官や校長と直接面会をし、研修目的や内容を伝え日程を決定していくなかで、問題を真剣に捉え研修に対し協力的な学校もあれば、面会の約束さえ何かしらの理由で延期となり、研修日程がなかなか決まらない、上辺だけ協力的に見えて実際は話しを聞いていないなど、研修に対し消極的な学校もあり、子どもの妊娠という問題は大人からの影響が大きいことは瞭然で、学校側としてはあまり触れて欲しくない問題ということが一つの理由であることが表れていました。

また、たとえ日程が決定しても、食料配給や政治活動の集会の為延期となることや、校長が日時を忘れていること、アナウンスが十分でなく人が集まらないことや手当を期待されることもあり、こうした学校側の研修を受ける姿勢や保護者の出席率の低さは、子ども達への教育や関心に直接繋がっているように感じられ、研修を行うことへ疑問を感じることもありました。

研修のなかでは、教員や保護者の話しから、子ども達が置かれている現状、例えば、レイプや親からの性的暴行などが実際に行われていること、がどの学校でも問題として挙げられ、認識しているにもかかわらず子ども達をその危険から回避するよう努めず黙認している大人たちに、落胆することも度々ありました。

一方で、子どもたちは、大人たちからの間違っただけの教育や噂、慣習、信仰などからの誤解があるなか、想像していた以上に正しい保健の知識があり、予防策なども高学年になるにつれ理解していることや、大人のように反発せず素直に知識を吸収していることが窺え、また、教員や保護者のなかでも、消極的であった方たちや間違っただけの知識を持っていた方たちが、研修を受けていく中で最後には正しい知識を広めていこうと声を挙げてくれたことは、研修の行った意義を実感できる嬉しい瞬間でした。

ある高校の校長が言っていたように、知識の付与だけでは問題は解決しないかもしれません。しかし、共に活動したケニア人スタッフが言っていたように、お金は使えばなくなり、知識は無くなることなく財産になることは間違いなく、自分自身や子ども達を守るために役立つものであり、アフリカにはまだまだこうした教育が必要であると感じます。

振り返ると、初めてケニア人スタッフとの会議に参加し戸惑い不安になっていた頃が、つい最近のように感じます。外部者として協力する、とすることを意識しすぎ、深く関わることを避けていたことを反省、課題とし、今後も、人の幸せや豊かさはその人によって異なりますが、CanDo が目指すように、地域に住む人たちが自身を考え、その行動によって暮らしがより豊かになることを目標として、国際協力の場で活動を続けていきたいと思えます。5か月半ありがとうございました。